

道徳資料研究委員会報告

世話係 若林一成

委員長 渡辺 宏

◆研究テーマ「自分を見つめ、友だちと関わり合いながら多様な価値観に向き合い、

よりよく生きようとする子どもを育てる授業のあり方はどうあったらよいか」

上記テーマのもと、平成28年度更埴道徳教育研究協議会の開催と道徳の教科化に向けた授業改善について、年間5回の委員会を実施した。

1 更埴道徳教育研究協議会の概要

① 会場及び実施期日 千曲市立屋代小学校にて 平成28年11月17日(木)

② 指導者 長野県教育委員会心の支援課指導主事 矢島 和明 先生
信濃教育会道徳教育研究調査部長 山崎 芳實 先生

③ 参観授業 屋代小 2年梅組 中澤 慎司 教諭
主題名「身近にいる人に温かい心で接し、親切にする」
資料名「あさがおのはち」 ー親切・思いやりー

④ 実践報告

・実践報告1 道徳資料研究委員 久保 文靖 先生(屋代中)

中2 主題名「職場と働く意義」

内容項目：勤労の尊さや意義を理解し、奉仕の精神を持って、公共の福祉と社会の発展に努める。

資料名「ごみ収集車のおじさん」(わたしたちの築くみちしるべ3 信州教育出版社)

・実践報告2 道徳資料研究委員 高梨 彰央 先生(埴生小学校)

小2 主題名「自分の好き嫌いとらわれないで接すること」

内容項目：誰に対しても分け隔てをせず、公正、公平な態度で接すること。

資料名「大なわとび」(わたしたちの道2 信州教育出版社)

⑤ 授業の概要

【主眼】

手助けをすることに恥ずかしさを感じたり、手助けをする勇気が出せなかったり、自分の都合を優先してしまったりして、困っている人に手を貸すことがなかなかできない子ども達が、資料の「あきひろさん」が迷った末、1年生の手助けをしたときの気持ちを考えることを通して、相手の気持ちを考えて、身近な人に親切にしようとする気持ちをもつことができる。

【自分と向き合う・友だちとの価値の交流】

あきひろさんの二つの考えの度合いを「心のものさし」で視覚的に示し、自分の気持ちの度合いと比較できるようにする。

【学習した道徳的価値と自分を重ねる】

『わたしたちの道徳小学校1、2年』「あたたかい心で親切に (P66・67)」身の周りの人にはどのようなことをしてあげるとよいだろう」に本時を振り返りながら記入する。

⑥ 指導者指導の概要

長野県教育委員会心の支援課指導主事 矢島和明先生のご指導

○心のものさしについて

とても有効な手立てではあるが、「何のために貼るのか」という点について、教師が十分吟味をする必要がある。ややもすると、貼ることが目的化してしまいがちで、特に中学生においては「ただ貼ればいい」という意識に陥りやすい。心のものさしの良さは、今の自分の有り様が可視化できるところにあり、他者と価値観の違いを比べることができる。そこで、友だちとのすりあわせの中で、お互いに相手の考えや立場を納得（納得会）していくことがこの手立ての良さである。一つの価値に収斂させていくのではなく、それぞれの立場で思いを語り合いオープンエンドの終末でありたい。



○子どもの捉えについて

現在多くの学校で行われている試みとして、年度初めに全内容項目についてアンケートを行い（例：これまでに友だちや周囲の人に対して、優しくしたことはありますか？など）、各内容項に対して、その子どのような状況に現在あるのか把握する。そうすることで、道徳の授業場面はもちろんのこと、日常生活においてもその内容項目に対しての変化や育ちが把握しやすくなり、その子の育ちを広く長い目で見とっていく手がかりとなる。

○教科化に向けて

教科書は主たる教材であり、教科書に掲載されているものを必ず使わなければならないというものではない。これまで各校で作りに上げてきた年間計画をもとに新しい教科書と照らし合わせて、「残したいもの」と「差し替えたいもの」とを何年かかけながら各校で実践し、吟味していくことが大切である。

信濃教育会道徳教育研究調査部長 山崎芳實先生のご指導

○「わたしたちの道」と「わたしたちの道徳」の併用について

本時及び実践報告の検討において、「わたしたちの道」と「わたしたちの道徳」を活用しての取り組みが行われていた。「わたしたちの道」と「私たちの道徳（※今後は教科書）」の併用の在り方を試行した実践について、信教においても今後、より子ども達の学びに生きる併用・活用の仕方について検討をしていきたい。只、やはり本時の終末段階で「わたしたちの道徳」を活用しての価値の深化については、それまで自分事として考えていた子が、「わたしたちの道徳」が出されたことにより、自分から離れた思考になってしまっていたため、1時間の中での併用は難しいのではないかと感じた。道徳は関係性の中で考えていくことに意味があり、取り出したものの中で考えていくことは、リアリティーがなく建前に陥りやすい。

○今後の道徳大切なこと

「道徳の時間」の教科化され、教科書が配布されたとき、特に若い先生方がその子の内面から乖離し、「只教科書を教えればよい」という錯覚に陥らないかが危惧される。そのような道徳が行われるとしたならば、子ども達は自らを語ることを閉ざし、閉塞した道徳の時間になるのではないか。更には、教師も保護者も教科書にあるからと価値の押しつけを強いるのではないか。信濃教育における道徳教育の歴史を踏まえ、長野県の子どもたちが、より豊かに生きていくための道徳資料集という意義を大切に、道徳教育のあり方や信教版道徳資料集についての議論を盛り上げ、「私」の「道徳の時間」の実践について、問い直しの輪を広げていただきたい。

2 本年度の委員会活動の成果と課題

- ◆今後の「道徳の教科化」が、目の前の子どもたちにとって幸せにつながるものでありたいと願い、本委員会でもさらに研究を深めていきたい。

【平成28年度 委員会構成】

- ◇世話係 若林 一成（八幡小長）
- ◇委員長 渡辺 宏（東小） ◇副委員長 春日 秀紀（更埴西中）
- ◇委員 近藤 佳子（屋代小） 高梨 彰央（埴生小）
久保 文靖（屋代中） 松沢 勝美（戸上中）